

「日々の理科」(第1737号) 2019 (H31), -4, 11

「桜満開! (8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

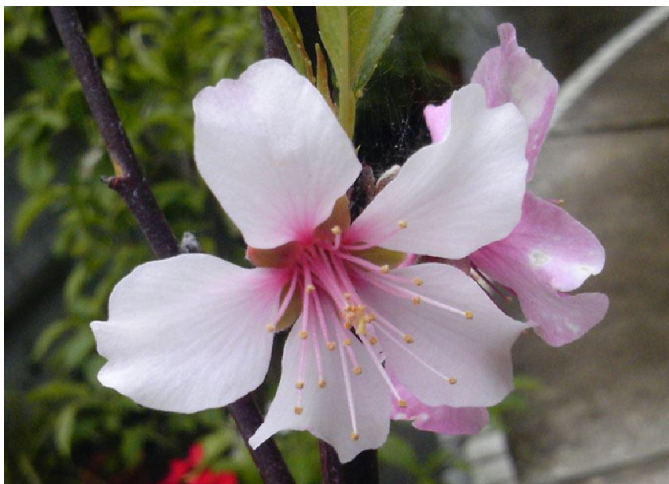
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小石川植物園は東京大学の附属施設で、植物学や分類学の研究の材料を提供するのが、本来の役割である。生きた標本として、日本各地に自生する植物(草本・木本とも)が育てられている



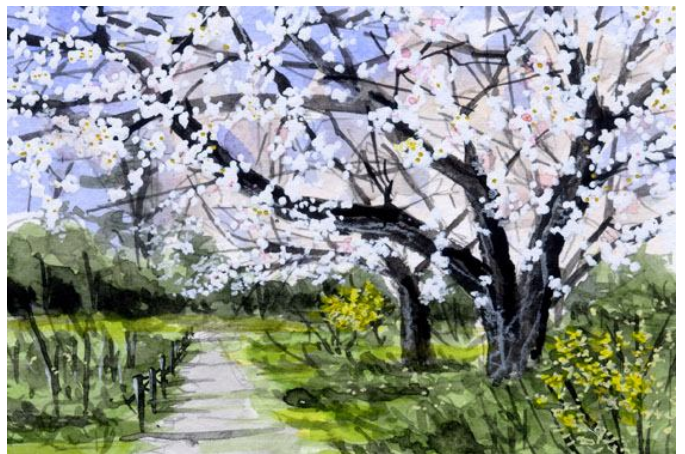
今の時期はサクラとともに、バラ科の木本植物の花もたくさん見られる。写真は説明がなければサクラの一品種のように見えるが、実はちがう。「ユスラウメ」という樹木の花だ。夏に、サクランボのようにみずみずしい、赤い実をたわわにつける。



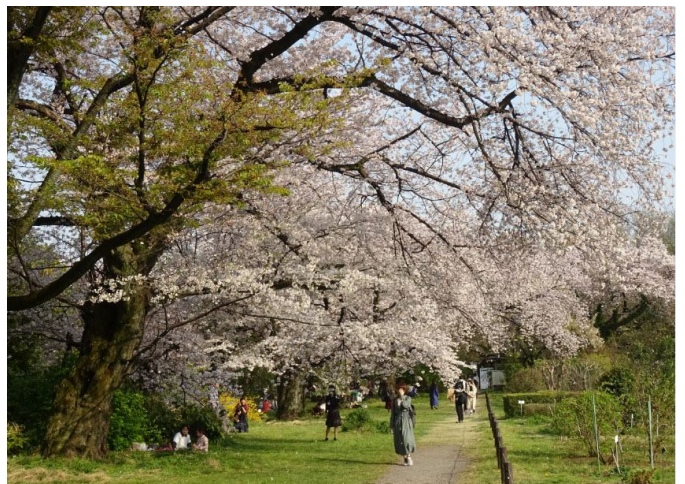
この花も同じバラ科の植物の花で、ユスラウメの花とそっくりである。これは何と、アーモンドの花だ。果実はまったく違うが、同じバラ科の樹木で、花だけはそっくりなのだろう。



サクラ園の中心にある、売店で一休みすることにした。普段は自動販売機だけだが、花見の時期は飲み物や、ちょっとした軽食も販売する。嬉しいことにソフトクリーム(バニラとメロン)も売っていた。



サクラの時期には、レンギョウやツツジも咲いている。色味に乏しいサクラに加えて、色のある花もあるのは有難い。私のように、少しでも絵を描く者にとっては、一日いても、モチーフに困ることはない。



サクラは広い範囲に植えられている。並木道とはちがって、まっすぐ歩くだけでなく、好きな風景を求めて、好きなように散策できる。まさに「日本の春の風景」を満喫できる素晴らしい植物園だ。